

## ★ 男女共同参画社会に関する意識調査報告 ★

### \* 調査の目的

市民の男女共同参画に対する意識や現状を把握し、今後の本市男女共同参画プラン策定の基礎資料を得ることを目的に実施しました。

あなたの、共同参画意識は  
どうですか？



### \* 調査項目

- (1) 男女平等に関する意識について
- (2) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (3) 女性と仕事について
- (4) ワーク・ライフ・バランス  
(仕事と生活の調和) について
- (5) 配偶者に対する暴力について

### \* 調査対象者

- ・鹿沼市全域
- ・市内在住満20歳～80歳
- ・1,800人対象
- ・無作為抽出
- ・メール便配布→郵便回収
- ・平成22年8月2日～8月31日調査

### \* 回収結果

有効回収数 749人  
回収率 41.6%

### 主な内容

- ・男女共同参画社会に関する意識調査報告……P 1
- ・調査結果……P 2～P 3
- ・鹿沼市より……P 4
- ・お気に入りBook… P 4
- ・ひとくちメモ……P 4
- ・編集後記……P 4

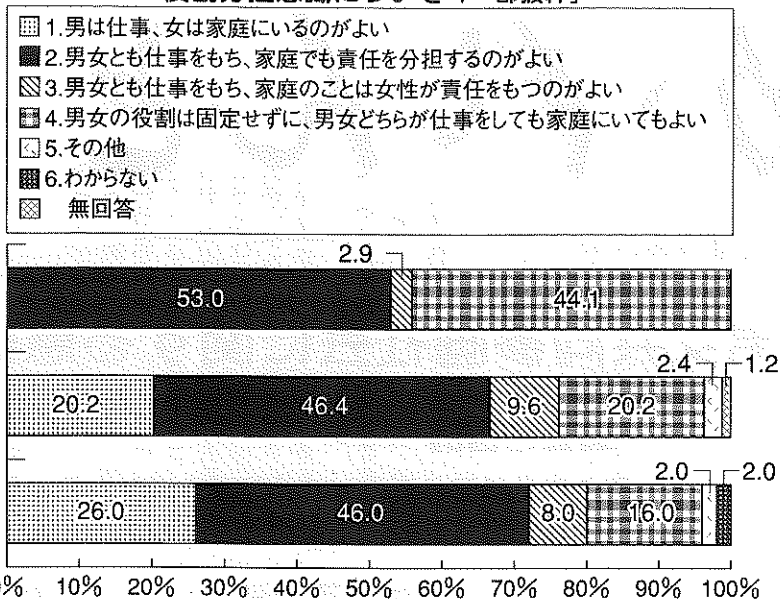
平成22年度に、男女共同参画に関する意識調査が実施されました。  
詳しいことは、市民部男女共同参画係63-8352へ  
お問い合わせ下さい。  
(市政情報コーナー・図書館でも閲覧できます。)



\*「かれんと」は、ボランティア編集員が担当し、作成しています。

(1) 男女平等に関する意識について

役割分担意識について「一部抜粋」



「現在、男女の地位はどの程度平等になっているか」という問いに、学校教育の場、法制度上では、平等である意識が高いが、職場、社会通念、習慣、しきたり等の、現実の人間関係においては、平等意識は低いようです。

役割分担意識については「男女とも仕事をもち、家庭でも責任を分担するのがよい」、「男女の役割

は固定せずに、男女どちらが仕事をしても家庭にいてもよい」という考え方が男女共に多いです。

20代男性においては「男は仕事、女は家庭にいるのがよい」という回答は0%でした。

(2) 結婚・家庭生活・子育て・介護について

結婚については、「女性の幸福は結婚にあるのだから結婚したほうがよい」に「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」と答えた割合が52.3%と最も多く、女性より男性が3.3%高くなっています。

次いで高かったのは「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が49%で、性別で見ると女性が11%高くなっています。これは男性が結婚を幸せの対象と見ているのに対し、女性は個人の自由として結婚を考えているようです。

子育ては20〜30代の男女の45%の人が「夫婦同じ程度」に子育てを分担していると答えています。

介護について、「親や身内の介護はどのように分担していますか」の問いに、全体では「夫婦同じ程度」が32.4%に対し、「妻が」が41.7%、「夫が」が1.1%と、まだまだ女性に依存しているのが伺えます。

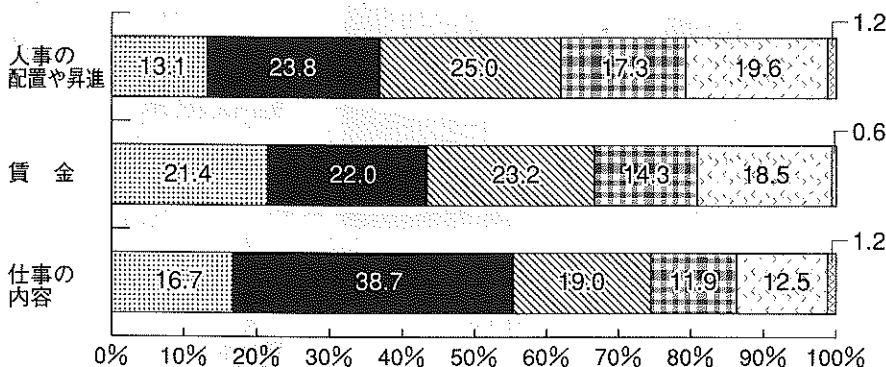
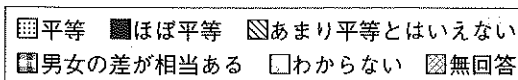
急速な勢いで進んでいる少子高齢化社会に向かい、今後は家事、育児、介護にも、更に男性の参加が必要です。

(3) 女性と仕事について

「子どもが出来たら職業を辞め、大きくなったら再び職業を持つのが良い」と25.4%の女性が答えています。

これからさらに、性別役割分担の解消、子育て支援策の充実等が必要ではないかと考えられます。

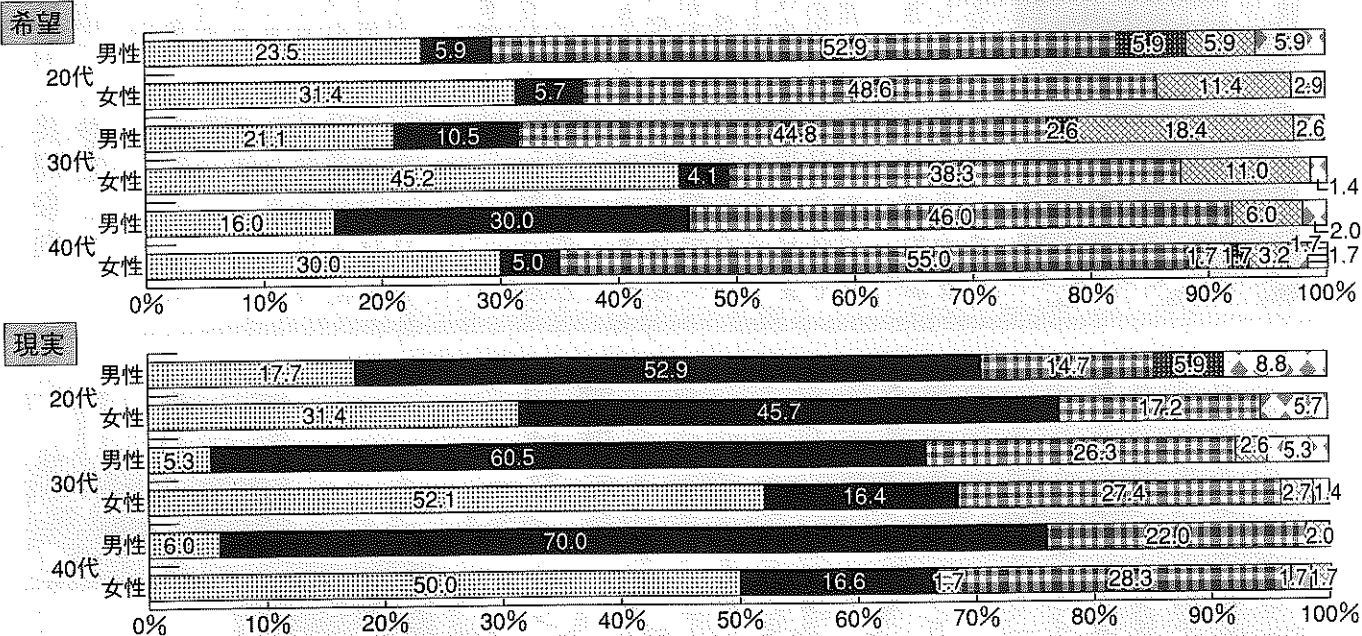
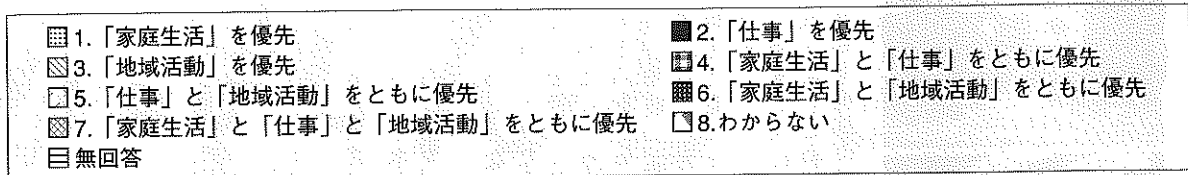
女性の職場での男女平等観



職業状況については、女性の57.2%は、何らかの形で職業を持っています。「その職場で男女平等になっていると思うか」の問いでは、人事配置や昇進について、42.3%が不平等感を持っています。

今後は雇用側の理解も必要となり、男女共に「育児休暇」などの制度を使用できる環境を整えていけば、結婚、出産後も仕事が続けられるのではないのでしょうか。

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実 (表は差が多い年代を抜粋)



(4) ワーク・ライフ・バランスについて

生活の中での優先度の希望では、男女とも40%近くが「家庭生活と仕事をともに優先」したいとしており、特に20代の男性と40代の女性は高い数字が出ています。30代女性では、「家庭生活を優先」が高く、これは、結婚し、子育ての期間を想定したものと思われます。

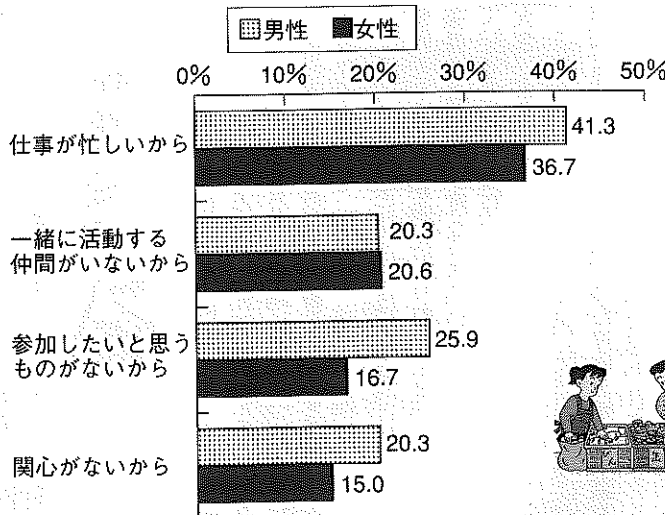
しかし、現実の数字では、20代から40代の男性は「仕事を優先」が高く、特に40代が高いです。「家庭生活を優先」においては30代、40代男性はかなり低くなり、希望と現実の数字が大きくかけ離れています。

女性においては40代で「家庭生活と仕事をともに優先」したいと希望していたにも関わらず、現実には、「家庭生活を優先」しています。

「地域活動」については、右下のグラフのように若い世代の人達には、なかなか参加できない現状もあるようです。

今後は男性も含め働き方の見直しを進め、仕事と生活の調和の普及がはかれることが望まれます。

地域活動に参加していない理由



(5) 配偶者に対する暴力について

配偶者に対して「殴る、蹴る、投げる」といった身体的暴力も「脅す、無視する、侮辱する」といった精神的暴力も、回答では、両方とも暴力だと認識している人が多いようです。

今回の質問に対して特に70代女性に「無回答」が多くみられました。

配偶者に対する暴力は、犯罪になる行為を含む重大な人権侵害であり、男女が平等で互いの尊厳を重んじ、対等な関係づくりを進める男女共同参画社会の形成を大きく阻害するものです。

今後は、暴力を容認しない社会風土を醸成するための啓発を協力し推進していく必要があるのではないのでしょうか。



# 鹿沼市は男女共同参画宣言都市になりました。

3月4日(日)鹿沼市民文化センター小ホールにおいて県内で4番目の宣言都市として、男女共同参画都市宣言を行いました。

当日は、記念式典として、さつきドリーマーズバトントワーリングの皆さんによるオープニングセレモニーで始まり、男女共同参画啓発川柳の表彰式や山田昌弘中央大学教授による記念講演「婚活時代の男女共同参画」が行なわれました。ここに参加者全員で読み上げた宣言文を紹介いたします。

## 鹿沼市男女共同参画都市宣言

清らかな水と豊かな緑にいだかれ、わたしたちは、思いやりや人情を育んできました。

いろいろな生き方が自由に選べるようになってきた今、だれもが幸せに暮らせる社会を築くことがわたしたちの願いです。

わたしたちは、性別にも世代にも人種にもとらわれることなく、対等な個人として互いを認め、責任を分かち協力し合います。そして、男女の別なくあらゆる分野で個性と能力を発揮できる鹿沼市をつくります。

男女が共にいきいきと輝き笑顔があふれるまちをめざし、ここに、鹿沼市が「男女共同参画都市」となることを宣言します。



## 「地域セッションin板荷」開催される

今年度の地域セッションは板荷地区で開催されました。

地区自治会協議会や婦人防火クラブ、老人会等の多くの皆様のご協力を得、「男女共同参画つてなあと」のテーマで、上都賀教育事務所の大貫雅子先生を講師にワークショップ方式で行なわれました。



多くの参加者から、「とても分かり易く、参画がなぜ必要か理解できた」等の声が聞かれたと共に、改めてその必要性を認識されたようです。24年度は、他の地区でも開催の予定ですので、一緒に学習してみませんか。

\*DV・離婚等の女性相談窓口があります。(無料) 人権推進課男女共同参画係 新館2階20番窓口 ☎63-8352



## ひとくちメモ 「参画」について

参画の「画」の字には「はかる」「はかりごと」という意味があり、考えを巡らせ物事を仕込むという意味があります。また、類似して使われる「参加」という言葉の意味は「集まりに一員として加わり行動を共にする」とあります。「参画」は「参加」よりも意識的に企画運営に携わるということになります。

行政においては、市民がその運営や計画に積極的そして、意欲的に加わることだとされています。

## 編集後記

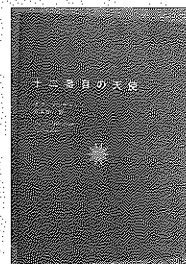
今回の報告書は、5年前のアンケートと質問の仕方が違っているため、比較検討することができませんが、「男女共同参画社会」については若い年代の人ほど、言葉も内容もかなり浸透しているようです。

しかし、実社会においては、地域では昔からの慣習やしきたりが重んじられ、会社では、労働条件、各休暇制度などについては法律で守られているものの、実際には希望と現実のギャップが大いようです。

これからも、「男女共同参画社会」の実現に向けて、地域、社会、学校のあらゆる分野で意識改革を進めて行く必要があると思われまます。

(とんとん)

## お気に入りBOOK



### 十二番目の天使

著者 オグ・マンディーノ  
訳者 坂本貢一  
出版社 (株)求龍堂

悲しみに暮れて先が見えなくなっている時。そんな時に主人公の少年が勇気を与えてくれます。復興の年・2012年！皆で力を合わせて前向きに生きていきましょう。